

# 世界の靴物語 ⑥

文・画 神奈川県企業博物館連絡会顧問 福原一郎

イギリス  
*gillie*  
ギリ

ギリはghillieとも綴られ、スコットランドの古語で従者という意味もある伝統的な履物で、民族舞踊や競技用に履かれていたが、19世紀末にタウン用として用いられるようになった。特徴は舌革のない短靴で、甲のはき口に鳩目穴または革の端をチューブ状に巻いた紐穴を付け、それに靴紐を通して交差させ、先端を足首に巻きつけて結ぶ形式となっている。

カーフやスコッチグレンなどの革を用いて爪先にメダリオン飾りを付け、ウイングチップでピンキング親子穴飾りのフル・ブローグ調の紳士靴がつけられている。

スコットランドの伝統的な民族衣装であるタータンチェックのキルト (kilt) という男性用のスカートをはき、ひざ下までの靴下にギリの靴を履いて、スカートの前には毛皮の付いたスポランという下げ袋が着けられる。

ギリのことを別名「プリンス・オブ・ウェールズ」とも呼んでいる。これは、イギリスのエドワード8世（後のウィンザー公）が1925年頃ゴルフ・ウエアーのニック・スタイルにギリを愛用されたことからこの名がついたものと思われる。

ギリは1940年代に婦人の中ヒールや、スポーツ・シューズ、また子供用にもとり入れられている。

アメリカ  
*opera slipper*  
オペラ・スリッパ

紳士用のルーム・シューズのことで、甲は前部と後部が両側で切替えられており、横からV型に見えるものである。

もとは、オペラ観劇用のフォーマルな室内履きであって、オペラ・パンプといわれるヒールの高いものであった。

オペラ・スリッパは20世紀の初頭から1930年代に、カーフやキッド、スエードなどを用いた豪華なものがアメリカでつくられ、クリスマスや誕生日の贈り物として人気があった。

日本では昔から「やげん（薬研）」といわれて親しまれている。

薬研とは漢方の薬種を細かく砕く器具のことで、内面がV型にえぐれていることから名づけられたといわれる。

往診などで靴をぬぐことが多い医師が利用していたことから“ドクター・シューズ”ともいわれている。

着脱が便利なのはスリッポンと同じで、ソフトな皮革や布地を用い裏材も軽いが重要で、ガウンなどの部屋着に合わせて用いられることから、爪先にイニシャルなどを刺繍したものもある。

海外旅行に携帯してホテルの部屋などで用いることも出来る。

*gillie*

ギリ



イギリス

*opera slipper*

オペラ・スリッパ



アメリカ